

授業者と学生の相互行為がもたらす教育効果 I

— 授業通信と電子掲示板は学生にどう受け止められていたか —

藤田 哲也 ・ 北神 慎司
(法政大学 文学部) (島根大学 法文学部)

大学の講義科目において、授業者と学生との間に相互行為をもたらすコミュニケーションツールの一つとして授業通信 (e.g., 藤田・溝上, 2001) を挙げるができる。一方で、近年のコンピュータ環境の急速な普及と整備によって、Web 上に設置した電子掲示板で、授業者と学生との交流を図る実践も増えてきている。本研究では、紙媒体の授業通信と、電子掲示板の両方を同じ授業内に導入し、学生がそれぞれのツールをどう受け止めるのかについて確認する。コンピュータ不安や、学生自身の達成動機づけという個人差との関連についても検討する。

【方法】

・ 被験者 島根大学法文学部 2004 年度後期開講の 2 回生配当科目「人間行動情報論 A」の受講生 40 名が分析対象。授業内容は認知心理学の概論。
・ 質問紙 本研究で用いた質問紙は次の 4 種類。
コンピュータ不安質問紙(小川・浅川, 1991) の 20 項目について因子分析した結果、「不安緊張(例: コンピュータを利用するのを恐れている) 7 項目」「効力感(自信を持ってコンピュータを操作できる) 7 項目」「回避(コンピュータを使うのは嫌いである) 4 項目」の 3 尺度を構成し、計 18 項目を分析対象とした。**達成目標質問紙**(藤田・田中, 準備中) は、全 17 項目から因子分析により「遂行目標(この授業でよい点数をとり、自分の能力を友人や先生に示したい) 8 項目」「習得目標(この授業から出来るだけ多くのことを学びたい) 6 項目」の 2 尺度を構成した。

授業通信質問紙は、藤田・溝上(2001)の作成した同様の質問紙から、当該の授業に合わせて 23 項目を精選した。**電子掲示板質問紙**は、授業通信質問紙を一部修正して新たに 21 項目作成した。いずれも因子分析の結果、1 因子が妥当と判断し、全項目の評定値平均を分析対象とした。

・ 実施時期 初回授業日に、コンピュータ不安と達成目標質問紙を実施。最終授業日に、コンピュータ不安と達成目標質問紙を再度実施したのに加え、授業通信質問紙、電子掲示板質問紙も実施。電子掲示板のアクセスおよび書き込み回数は、期

末レポートの題目発表(2005 年 1 月 11 日)前後の 100 件を分析対象とした。

・ 電子掲示板 Web 上に設置した 2 種類(授業に関する質問、その他の質問)の電子掲示板は、パスワードによるログイン制にすることで受講者専用とし、かつ、学内のネットワークからのみアクセスできるよう設定し、受講生ごとのアクセス回数と書き込み回数のログを取得した。掲示板の使用状況は成績に反映しないが積極的な利用を求める趣旨の説明を初回授業で行った。

・ 授業通信 毎回の授業終了時に、B6 判の「質問用紙」に感想・意見・質問などを自由に記述し、提出することを求め、それらの中から、適宜、質問や意見を選択し、Q&A 形式で答えたものをプリントにして授業通信として次の回の授業で毎回配布した。質問用紙に何も書いていなければ、出席扱いとはしないことを初回の授業で注意した。

【結果】

掲示板に書込んだ受講生数は 40 名中、「授業に関する」方が 15 名、「その他」が 26 名。それぞれの掲示板への書込の有無によって、授業通信得点及び掲示板得点に差があるかどうかを t 検定で確認したところ、授業に関する掲示板への書込有りの学生の方が、無しの学生より掲示板得点が高かった(図 1) 以外は、有意にならなかった。書込回数との間に有意な相関が見られたのは「その他の質問掲示板への書込回数」と「最終回の遂行目標」の間のみ ($r=.51$)。コンピュータ不安と書込回数との間には有意な相関は見られなかった。

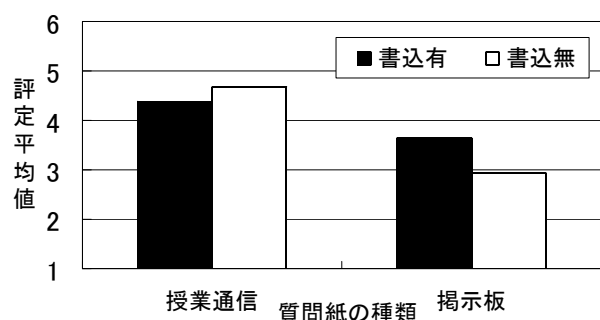


図 1 「授業に関する質問」掲示板書込有無による、授業通信と掲示板の受け止め方の比較